

# 公庫、学生企業に1.1億円

## 外国人客向け商品情報アプリに期待

### 24歳古田代表海外も視野

沖縄振興開発金融公庫（川上好久理事長）は27日、商品バーコードから読み取る情報を多言語に変換するスマートフォン向けアプリを開発した「Payke（ペイク）」（那覇市、古田奎輔代表）に1億1千万円を出資したと発表した。6月6日に出資を実行した。公庫が学生ベンチャー企業に出資するのは初めてで、24歳の最年少の社長となる。資金は事業拡大に伴う新規雇用や広告費などの運転資金に充てられる。

### ITベンチャー「ペイク」



沖縄振興開発金融公庫が出資した「Payke（ペイク）」の古田奎輔代表（中央）＝27日、那覇市の同公庫

アプリはSNSなどで拡散され、台湾や香港などで人気が高い。ドラッグストアで販売する薬品や日用品を中心に、取扱商品情報は10万点を超える。今後は地域の物産商品も積極的に取り込む。

同社はアプリをダウンロードしていない外国人観光客にも対応するため、県内の小売店舗の一部に専用タブレットを設置。商品をかざすだけで商品の情報が表示されるサービスも提供している。

今後は集積したデータを外国人の買い物需要や行動パターンを分析するためのビッグデータとして活用する。

公庫は①外国人観光客を中心とした消費活動のさらなる活性化が期待できること②ビッグデータを活用した効果的なマーケティングが県内外の企業の売り上げ増加に期待できること③雇用創出など、地域の振興に寄与すること―を高く評価した。

古田代表は「今後は海外市場での進出も視野に入れて取り組みたい」と意気込みを述べた。

# ペイクに1.1億円出資

## 沖縄公庫 外国客用アプリ支援

訪日外国人向けのITサービスを提供するPayke（ペイク、那覇市、古田奎輔CEO）は27日までに、沖縄振興開発金融公庫（川上好久理事長）から1億1千万円の出資を受けた。今後、外国人客の買い物需要や行動パターンを分

析するビッグデータを整備し、海外市場への進出も視



沖縄振興開発金融公庫から1億1千万円の出資を受けたPaykeの古田奎輔CEO（中央）と同公庫新事業育成出資室の屋比久盛徳室長（右）と成島翔太さん（左）は27日、那覇市おもろまち

野に入れる。

同社は商品バーコードにスマートフォンをかざすだけで商品情報が多言語で表示されるサービスを開発し、全国的にも有望なベンチャー企業として注目を集めている。今回の増資で得た資金は事業拡大に伴う新規雇用や、アプリ利用者の拡大に向けた広告費などに充てる。

現在、食品や化粧品など約800メーカーがペイクのサービスを導入しており、多言語で情報表示できる商品数は約10万種類に上っている。日本を訪れる観光客が増加する中で、アジア圏を中心に240万人がペイクのアプリを使用しているという。

27日に沖縄公庫で会見した古田CEOは「国内最大

の商品情報言語データベ  
スを有している。今後新  
な情報流通インフラを創  
ていきたい」と述べた。